

2019年度 東京藝術大学油画科特別講座
村山悟郎＋菅亮平合同ゼミ 1

S

【テキスト論と作家論から】

場所：2020年01月14日(火)上野校地中央棟第6講義室

時間：10:00 - 12:00

対象：全学生のうち希望者（学部一年生は必修）



Image: The Void, 1958, Yves Klein

油画科非常勤講師の村山悟郎および菅亮平による本講座では「テキスト論と作家論」をテーマとし、作者と作品制作の関係について、批評理論としての二つの立場の相違を踏まえた考察を行います。私たちはそれぞれのアイデンティティを根拠付ける様々な民族、地域、文化、宗教、歴史的背景を持ち、一般にそれらアーティストの出自とその文脈から生まれる問題意識を、美術の形式や言語に接続することで作品を創造します。そうした作品制作と批評との間では、作家を起点とする解釈の視点と、作品（テキスト）自体の解釈に重きを置く視点が常に交錯します。まず最初の村山のレクチャーにおいては、作者と作品の関係性を分析するための概念的・理論的な思考の枠組み（領域横断と間文化性、そしてバイ・カルチュラル・アプローチの提案）を提示し、後半の菅のレクチャーでは「作家研究（作家論）」の観点から、アートの実践の見地からの先行研究の在り方を提示します。作品を創作する私たちに常につきまとう、作品の形式的構成とアイデンティティの確立の相関性について課題抽出を行なうことを目指します。